

小5国語 出題のねらいと対策

1 漢字の読み書き 77.5%

ねらい：漢字の正しい読み書きがしっかりとできるかを問う。

分析と対策：漢字を書くときには、一画一画でいねいに書くことを心がけてください。また、送り仮名によって読み方がかわる漢字には、特に注意が必要です。

2 かなづかい 75.4%

ねらい：かな表記についての基本的な知識を問う。

分析と対策：「ジ」と「ヂ」、「ズ」と「ヅ」の表記のちがいが、また、「オー」とのばす音の表記の原則を、しっかりと覚えてください。

3 詩の鑑賞 56.0%

ねらい：たとえの意味の把握など、詩についての基本的な読解力や、作者の心情をとらえる力を問う。

分析と対策： 詩のことばと形式、表現上の特ちょうについては、詩の問題では必ずといっていいほどよく出題されます。文語と口語の違い、定型詩と自由詩の違いは、ノートなどにまとめておくとういでしょう。アは「体言止め」、イは「倒置法」、ウは「擬人法」、エは「反復法」といいます。

「よるこび」の内容を問う問題です。

行目にあるような、山を「あせにまみれてよじ登った」苦勞が喜びに変わるの、どういう場面かを想像してみましょう。

4 物語の読み取り 68.6%

ねらい：場面の把握や、登場人物の心情をとらえる、基本的な読解の力を問う。

分析と対策：この文章は、幸子とふーちゃんの二人が登場します。二人はまだ出会ったばかり。幸子の心の不安を見ぬいて親切にしてくれるふーちゃんと、その姿を見て、幸子が、他人への甘えやずるさに気づきはじめている場面です。二人の気持ちの動きを本文から読み取りましょう。「丘にふく風はやさしい」という表現からは、ふーちゃんの好意を受け止めている幸子のすがすがしく幸せな気持ちがわかります。

「胸にしみる」は、「身にしみる」「心にしみる」などと同じく、心に深く感じるという意味で使われています。

「胸」で始まる成句や慣用語は「胸が痛む」「胸がいっぱいになる」「胸をなでおろす」など、さまざまなことばがあります。「目にしみる」は、目が刺激されたいときや、色があざやかに見えるときなどに使われます。「今まで、さんざんやってきたこと」は、一部直前に「だったら、これからもときどき心配させてやろう」とあることから、「心配させてやることだとわかります。設問の指定にそった「他人」ということばを使い「～こと。」につながる形の解答にすることも重要です。

全体の平均点は67.9点です。大問別テーマのうしろの数字は、全体の大問別正答率です。個人成績表を見ながら、不得意テーマに対する今後の学習の方針を見つけましょう。